

2022 年度卒業生調査報告（抜粋）

1. 報告要旨

本報告は、2018 年度に本学を卒業した卒業生を対象に行った「2021 年度 清泉女子大学「大学での学びと仕事」についての調査」（以下、卒後 3 年アンケート）をもとに、卒業時点における「学びの達成度」や本学での学びの有用度などをまとめたものの抜粋である。

卒後 3 年アンケートは 2022 年 7 月 13 日～8 月 14 日まで Google Form を用いて実施し、対象者（就職課に連絡先の届け出があった者）279 人中 61 人から回答を得た。回答者の内訳は日文 19 人・英文 16 人・西文 6 人・文化史 12 人・地球市民 8 人であり、回答者の 92%（56 名）が正社員として就労していた。

2. 結果の概要

2.1. 卒業後 3 年経過時点で大学生活を振り返ったときの全学 DP 達成度

本学の卒業認定・学位授与の方針（以下 DP）は文学部 DP と学科 DP の 2 つが定められており、文学部 DP についてはすべての卒業生が満たすべきものとして設けられている（表 2-1）。

表 2.1：清泉女子大学 文学部 DP（2021 年度以前）

清泉女子大学文学部は、本学に所定の年限在籍し所定の単位を修得し、次のような知識、技能、態度、資質を備えた学生に対して卒業を認め、学士の学位を授与する。

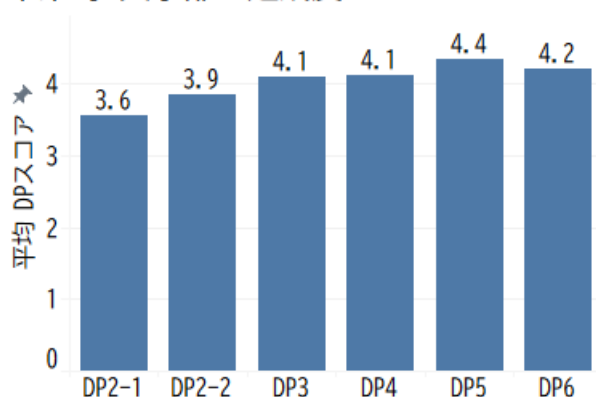
- (1) 豊かな教養と専門領域の学芸を修得している。
- (2) 建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムを理解し、他者を思いやる人間性を持ち、奉仕的精神を持って行動できる。
- (3) 複雑な事象を前にしても、問題の根源にさかのぼって論理的に思考を重ね、解決を目指すことができる。
- (4) 言語等によるコミュニケーションの能力を備え、多様な立場や考え方が交錯する中でも対話を続ける姿勢を保つことができる。
- (5) 文化の多様性を理解し、個々の文化の個性を尊重し、国際社会の中で活躍するための基本的な資質を備えている。
- (6) 常に学ぶ態度を忘れず、知識を広め教養を深めて、自分を豊かにしていくことができる。

DP(1)[豊かな教養と専門領域の学芸を修得している]については卒業時 GPA で検証してきたため除外し、DP(2)から DP(6)について達成度の自己評価を行った。達成度の自己評価は 1（達成できなかった）から 5（達成できた）までの 5 段階とした。また DP(2)[建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムを理解し、他者を思いやる人間性を持ち、奉仕的精神を持って行動できる]については、①[キリスト教ヒュ

ーマニズムの理解]と②[キリスト教ヒューマニズムに基づいた思いやりのある行動]という2項目に分割して評価を実施した。

図 2.1 は、卒業後3年アンケートの回答者について、卒業時点での文学部 DP 達成度と、卒業後3年経過時において卒業時点を振り返ったときの文学部 DP 達成度（平均値）を示したものである。卒業時点よりも著しく低下した項目はなく、またすべての項目でスコアが3を超えていることから、卒業生は社会に出て経験を積んだ時点で振り返っても、大学の学びは卒業時点で十分に達成したと評価しているといえる。ただし、これはあくまで「DPに定められた」学びについての達成度であり、カリキュラムや科目等の不足による未達成（学びたい内容について対応する科目がなかった、履修できなかった、など）については別途検証を行う必要がある。この点については2.4節で検討する。

卒業時 文学部DP達成度



卒業3年 文学部DP達成度

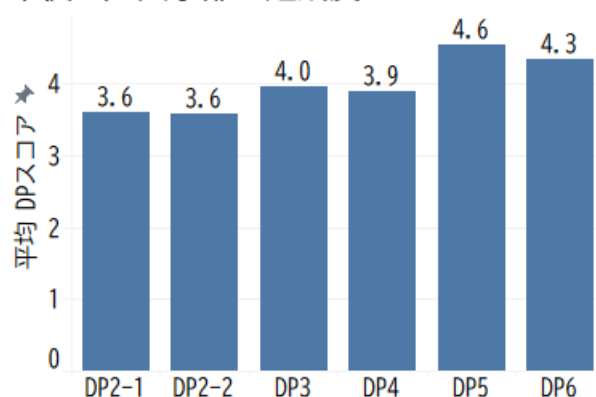


図 2.1 卒業時および卒業後3年時点での「卒業時における文学部 DP 達成度」（自己評価）

2.2. 全学 DP(6)に対応する実際の学習行動

全学 DP(6)「常に学ぶ態度を忘れず、知識を広め教養を深めて、自分を豊かにしていくことができる」に対応する行動として、卒業後に行った・行っている学習活動について尋ねたところ、なんらかの手段で学んでいる・学んでいたと答えたのは全体の56%であった。学んでいた・学んでいると答えた卒業生における学習内容の内訳は表 2.2 のとおりである（複数選択のため、合計は100%にならない）。このことから、本学の卒業生の半数以上は、学ぶ態度を実際の学習に結び付けて学び続けているといえる。

表 2.2：卒業後の学習状況

企業が提供するオンライン講義・教材（アプリやオンライン英会話、通信教育、Udemyなどを含む）を利用して学んでいる・学んだことがある	82% (28人)
企業が提供する対面教育（英会話学校やカルチャースクール）を利用して学んでいる・学んだことがある	21% (7人)
大学・大学院などの教育機関が提供するオンライン講義・教材（edXやJMooc、放送大学などを含む）を利用して学んでいる・学んだことがある	6% (2人)
大学・大学院などの教育機関が提供する対面教育（単発・短期の集中講座を含む）を利用して学んでいる・学んだことがある	6% (2人)

2.3. 学科 DP 達成度

学科 DP については表 2.3-1 のとおりであり、卒業時アンケートでは各学科につき 1 項目の DP に対して表 2.3-2 の設問を作成し、卒業時における達成度の自己評価を行った。卒業 3 年アンケートでは、卒業時アンケートに倣う形で設問を作成し、同様に卒業時における達成度の自己評価を行った。達成度の自己評価は 1（達成できなかった）から 5（達成できた）までの 5 段階とし、学科別の平均値の比較を行った。

図 2.3 は卒業時点での学科 DP 達成度と卒業後 3 年時点で振り返ったときの学科 DP 達成度を示したものである。卒業時点と卒業後 3 年時点で、学科 DP 達成度がもっとも低かった学科ともっとも高かった学科の組み合わせは変わらなかった（もっとも低いのが西文、もっとも高いのが地球市民）。英文を除いては卒業後 3 年の評価がやや低くなっており、社会に出てからの経験を通じて、達成度の自己評価が厳しくなった可能性が示唆される。

表 2.3-1：学科 DP（2021 年度以前）

●日本語日本文学科ディプロマ・ポリシー

- (1) 日本語学・日本古典文学・日本近代文学の三分野において豊かな教養と深い専門的知識を修得している。
- (2) 日本語及び日本文学の知見に立って、論理的な思考力と優れた表現力を備えている。
- (3) 国際貢献の土台となる、自国の文化への深い理解を持っている。

●英語英文学科ディプロマ・ポリシー

- (1) 英語運用技能（読む、書く、話す、聴く）を修得している。
- (2) 英語学と英米文学を中心とした英語で書かれた文学における専門的知識を持っている。
- (3) 広い視野と深い教養を持っている。
- (4) 多様な文化への理解がある。
- (5) 国際社会に貢献できる。

●スペイン語スペイン文学科ディプロマ・ポリシー

- (1) スペイン語の基本技能（読む、書く、話す、聴く）を修得している。
- (2) スペイン語で書かれた文学を学修している。
- (3) 広い視野と深い教養を持っている。
- (4) 多様な文化への理解がある。
- (5) 国際社会に貢献できる。

●文化史学科ディプロマ・ポリシー

- (1) 歴史・美術史・思想史・宗教史の四つの専門分野ならびに関連分野を学修し、いずれかの分野の専門的能力を備えている。
- (2) 先入観や偏見にとらわれることなく、広い視野から専門分野にかかわる諸問題に取り組み、批判的・自律的に考えることができる。
- (3) 異文化や他者を理解し、よりよい世界の構築に寄与しようという意識をもって思索を重ねることができる。

●地球市民学科ディプロマ・ポリシー

- (1) 主体性・責任感・協調性を修得している。
- (2) 判断・批判・対話・創造・実践の各能力を修得している。
- (3) 地球社会の諸問題を国家や民族の枠組みを超えて、人類の共生という視点を理解し、解決していくことができる。
- (4) 英語等外国語運用能力を修得している。

表 2.3-2：学科 DP（2021 年度以前）達成度用設問

[日文]あなたは日本語日本文学科で学んだことで、自国の文化への理解は深まりましたか。
 [英文]あなたは英語英文学科で学んだことで、英語学や英米文学についての広い視野と深い教養を身につけることができましたか。
 [西文]あなたはスペイン語スペイン文学科で学んだことで、スペイン語学やスペイン文学についての広い視野と深い教養を身につけることができましたか。
 [文化史]あなたは文化史学科で学んだことで、専門分野（美術史・歴史学・思想史など）に関わる諸問題に取り組み、批判的・自律的に考えることができるようになりましたか。
 [地民]あなたは地球市民学科で学んだことで、地球社会の諸問題を国家や民族の枠組みを超えて、人類の共生という視点を理解し、解決していくことができるようになりましたか。

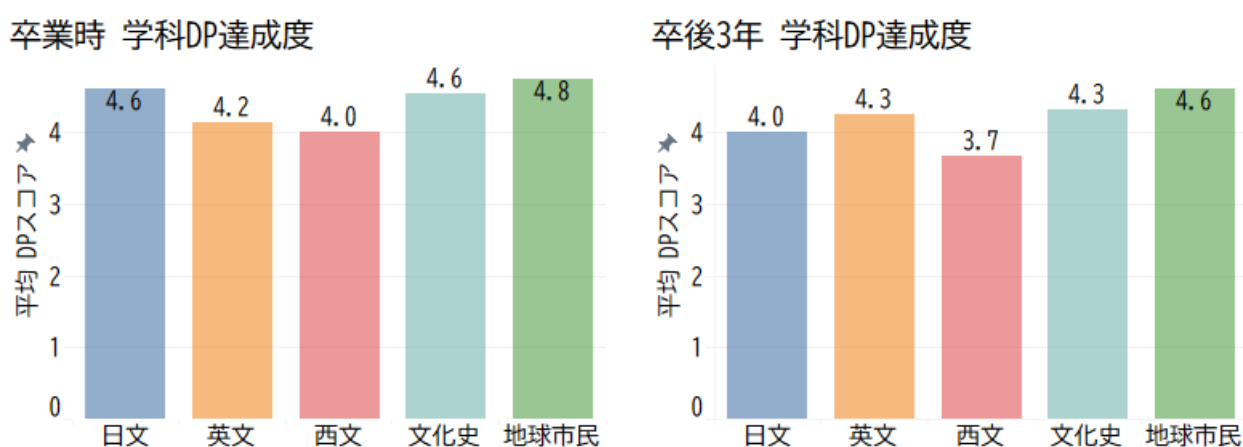


図 2.3：卒業時および卒業後 3 年時点での「卒業時における学科 DP 達成度」（自己評価）

2.4. 学科の学びと社会

図 2.4 は、学科で学び身につけたことが仕事の役に立ったかを尋ねたものである。「役立ったと思う」「やや役立ったと思う」を合わせた回答の割合は文化史がもっとも高く（92%）、地球市民（88%）、英文（81%）、日文（73%）、西文（67%）の順であった。「役立ったと思う」と答えた学生の割合は西文・日文で他の学科よりも低かった。学科の特性上、専門の学びが直接「役に立った」と感じづらい可能性がある。卒業生はおおむね本学における専門科目の学びで身につけたことが仕事の役に立っていると考えていると言えるが、一方で「役立たなかった」と感じている学生については、カリキュラム等の不満について詳しく調べる必要があるといえる。

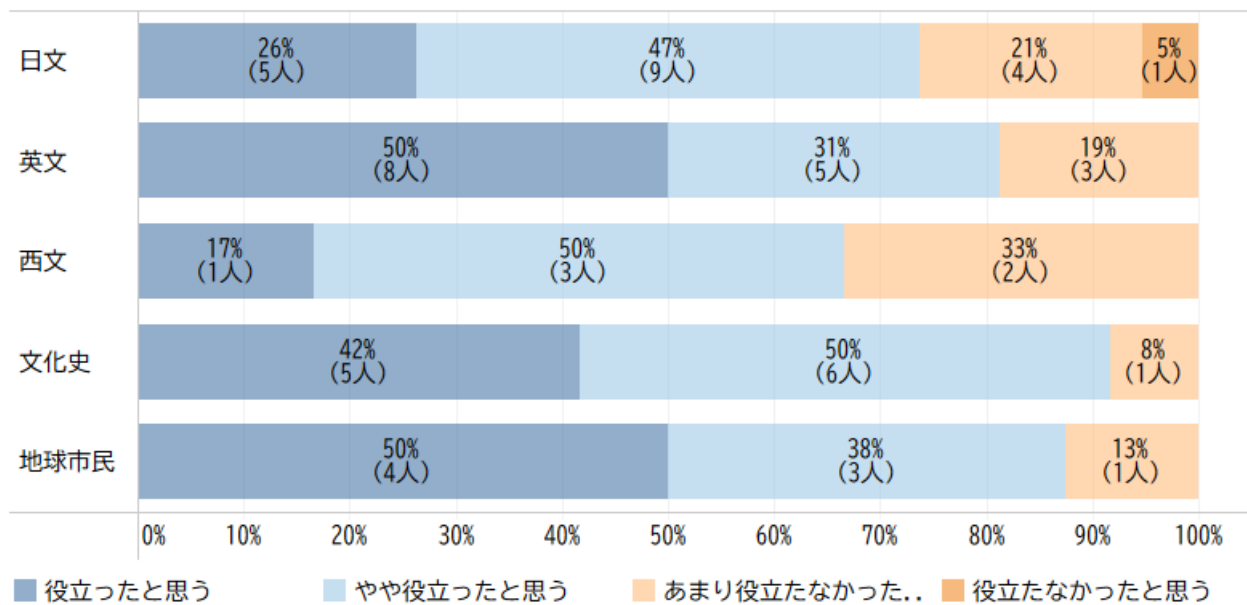


図 2.4：学科で学び身につけたことが仕事の役に立ったか

以上